

## 2022 春 コロナ禍の山 二題（個人山行）

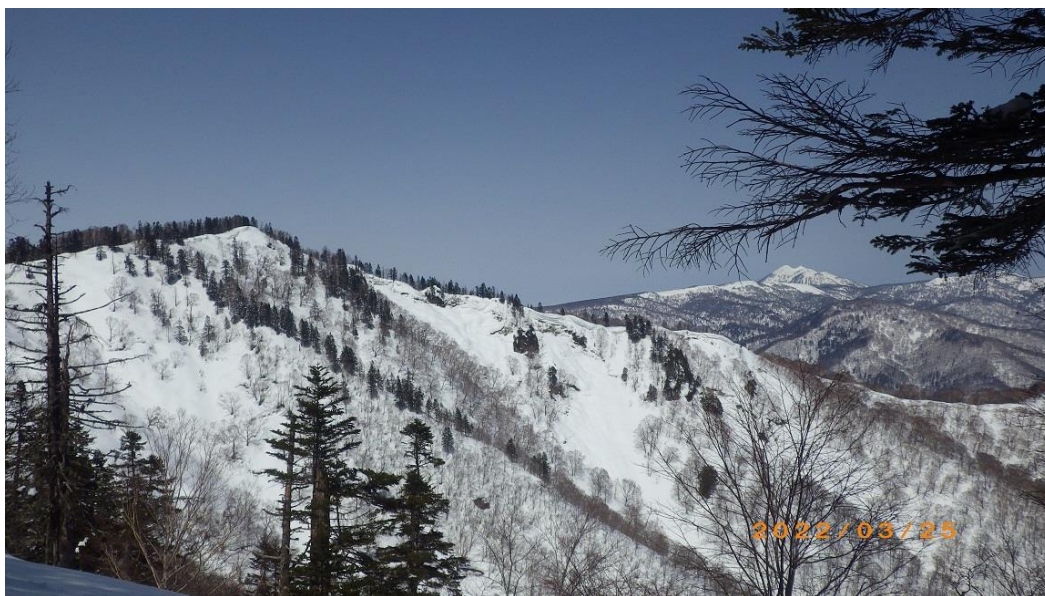
（報告）赤澤 東洋

年明け早々発令された新型コロナ対策の「蔓延防止等重点措置」が3月21日2ヶ月半ぶりに解除されたので、寝た子を起し早速にも登山再開しました。本項ではその中の二つの山行を報告します。

《①2022年3月「上州西山」、②同年5月「谷川連峰・赤沢山&稲包山」》

### ▲▲▲ ①新たなスノーシュー山行の適地を探しに上州西山（1898m） ▲▲▲

◎期日：3月25日（金） ◎メンバー：赤澤他1名（妻）



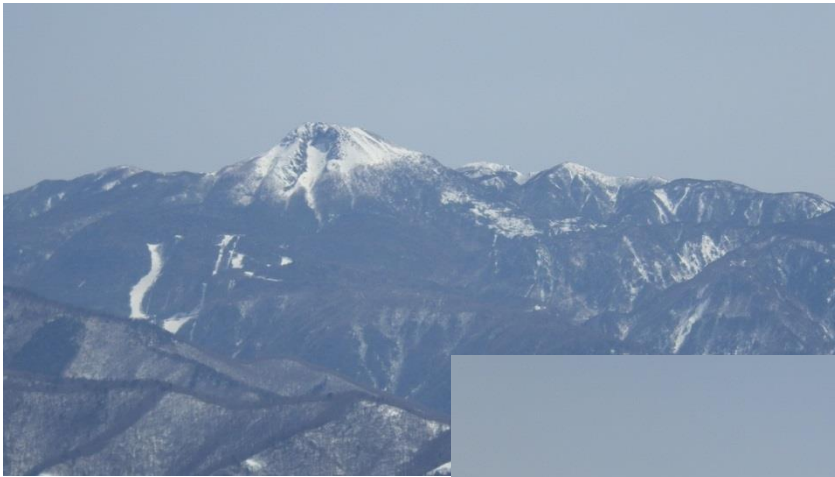
（上州西山山頂と右奥・燧ヶ岳）

スノーシューの初体験は2002年3月の吾妻連峰・家形山だった。慶応OBの都岳連・個人会員岩永氏主催の吾妻山スキー山行で慶応吾妻山荘に宿泊、ここで初めてスノーシューを借りて歩いてみた。ワカンに比し新雪でも潜らず面白そうなので下山後早速秋葉原のニッピンへ出かけて購入した。以来20年、シリウスでもこの10年ほど毎年有志を募ってスノーシュー山行を計画してきたが、そろそろ種が尽きてきたので新しい適地を探していた処、上州西山は尾瀬岩鞍スキー場のゴンドラが利用出来るという情報を入手したので下見に出かけてきた。

西山を知る人は少ないだろう。高さはまずまずだが谷川岳から見ると懐にスキー場を抱えた西山は武尊山と尾瀬・笠ヶ岳に挟まれてなだらかで目立たず、山と云うよりちっぽけな丘みたいなもので平凡すぎて登りたいと願う者はいないのではないかと思う。

前夜は老神温泉の飲み放題伊東園グループ「山楽荘」泊。安い上に尾瀬岩鞍スキー場までは車で35分という近さがいい。

25日（金）8時半に標高1000mの岩鞍スキー場に入る。ゴンドラ料金は往復2000円、これで高度差675mを稼いでくれるのだから有難い。登山者はあまりいないらしいが、近頃はバックカントリーでコース外を滑るのが流行っているようで、受付で登山届を出すとゴンドラ内でよく読むようにと緊急時の行動についての注意書きを渡された。救助捜索費用（1時間当たり）1名2万円、スノーモービル1台1万円等と書かれてあった。晴天でゴンドラが上がっていくにつれ後方が開け聳立する奥白根山が白く猛々しく朝日に輝いている。左手には武尊山も全容を露わにし今日は大当たりとニンマリする。



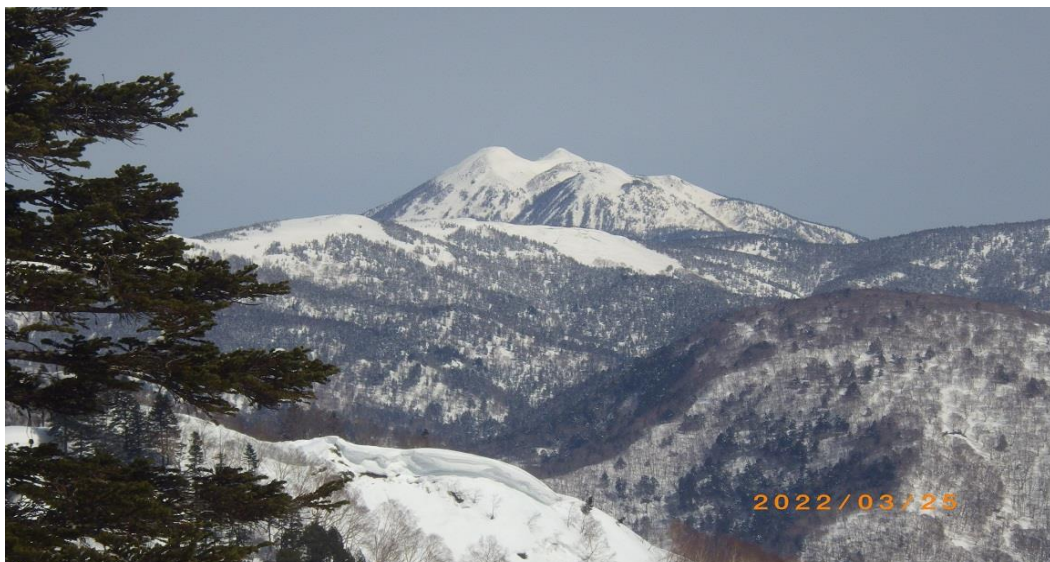
(↑ 白く猛々しい奥白根山)

(↓ 全容を露わにした上州武尊山)



ゴンドラ頂上駅からは整備されたゲレンデ連絡路をアイゼンにて出発、100m程先で右手のブナ林に踏み込む。尾根沿いに山スキー跡が幾つかあるので何とか行けそう。次第に雪が深くなりワカンに交換していると山スキーのソロの女性に抜かれたので先行者が出来て助かったと思ったが西山方向には向かわず左手の方に折れていく。地図からすれば西山は右方向、先のルートに不安がよぎった。

登山対象の山ではないので指導標も赤テープもないが、目を凝らせば右方向にシュプールがあり気を取り直して前へと進む。オオシラビソの樹林帯に入ると右手に尾瀬を代表する燧ヶ岳が見えてきて真っ白な双耳峰は神々しいばかりで、これを見る事が出来ただけでも来た甲斐があったというものだ。



(真っ白な双耳峰が神々しい尾瀬・燧ヶ岳)

11:40 西山頂上着。小さな標識が木に取りつけてある。急登もなくスノーシューに適したルート、登り始めて2時間15分は健脚組にはかなり物足りないだろうがロートルには向いているので来年の山行候補にしようと思う。狭い頂上で寛いでいると男性1、女性2の山スキーグループが登ってきたので写真を撮りあい下山とする。下りはゴンドラ頂上駅まで1時間15分だった。

## 《コースタイム》

ゴンドラ頂上駅 9.25→11.40 西山頂上 11.55→13.10 ゴンドラ頂上駅 (標高差：223m)

## ▲▲▲ 赤沢山 (アカサワヤマ・1455m) & 稲包山 (イナツツミヤマ・1597m) ▲▲▲

◎期日：5月24日(火) ◎メンバー：赤澤(ソロ)



(登山道から仰ぐ稲包山)

みなかみ町には赤沢山が2つある。一つはJR土合駅の裏山で標高1328m。04年3月末に川崎さんと深雪の中登ってきた。もう一つが猿ヶ京温泉先の赤沢スキー場から登る赤沢山で標高は1455m。いつか登らねばと思うものの途中の赤沢峠までは上信越自然歩道として整備されているが、峠から先は登山道が無く笹藪漕ぎをしなければならぬという事でずっと先延ばしにしてきたものだ。

前日は苗場の山荘に泊まり早出して赤沢スキー場入口の車道脇に駐車する。赤沢スキー場は1980年(昭和55)開場、こじんまりとしたファミリー向けのスキー場で旧新治村が村民の為に開発したもので、村は05年に水上町と合併したので今はみなかみ町の町営スキー場となっている。かつてのスキーブームの頃はそれなりの人出もあったが、いまは寂れてしまい存続が危ぶまれていると聞いている。

6.10 出発。天気は良く朝日に映える緑眩しい中、ゲレンデ左脇の「四万温泉・赤沢峠・稲包山方面」の標識に導かれ杉林の登山道に入る。これは四万温泉と法師温泉を繋ぐ赤沢林道として古くから知られており、上信越自然歩道の一部として旧新治村では80年代に指導標を整備しハイキングコースとして宣伝し新緑や紅葉の季節には家族連れで賑わっていた時期もあったが、その後みなかみ町となって体制が変わったせいか整備は手抜きされ今や打ち捨てられて荒れてしまっているという。

稲包山は過去5回登ったが、ルートは複数あり、最初に登ったのは96年6月、54歳の時で単独でこの赤沢スキー場ルートを辿り、上り3時間20分、下り2時間だった。他に三国峠からキワノ平ノ頭を経由する三国峠ルート、苗場側の三国スキー場跡より登るルート、さらには赤沢スキー場の先ムタコ沢沿いの林道を行き秋小屋沢橋先から東電の送電線巡視路を使わせてもらう裏道もあり、時間的にはこれが一番近道で、2010年5月のシリウス会山行ではこのルートを辿った。参加者は藤野さん、中道さん、服部さん、川崎さん、斎藤光子さん他で上り2時間10分、下り1時間20分だった。

展望のない樹林帯の中の林道は急登はなく歩き易いが人の気配はなく熊でも出そうで何となく心細くなる。1時間程で車道を横断し杉の植林帯をトラバース気味に登っていくと登山道の左端に何やら落ちている。何だろうと近寄ってみると熊の糞のようでその大きさにギョッとす。脱糞後間もない風で

湯気が立つくらい新しいホヤホヤの落とし物。熊の糞はあちこちで見かけた事があるが、雨に当たってくずれている事が多くこれほど新しく見事な物は初めてだ。北海道のヒグマなら分るがツキノワグマでこれだけの物を出すとなると相当な大物に違いなく思わず周りを見回して「おおーい、熊さん出てきちゃダメ！！」と大声で怒鳴り、熊鈴鳴らし声出しながら前進する。

8:05 コース唯一の水場着。美味しい水を補給し一息入れる。沢の先には鎖場が出てきて26年前にも通っている筈が全然覚えておらず「エッ！」「こんな場所あったっけ？」と驚き慎重に乗っ越す。

9:00 赤沢峠着。峰の小屋と称する東屋はもうかなり傷んでいる。コース上には幾つか標識が設置されているが、どれも長い間の苛酷な風雪に晒されて文字が読めるのは少ない。これでは一般のハイカーが寄り付かなくなるのは仕方ないだろう。



(出来立てホヤホヤの落とし物)



(赤沢峠の東屋「峰の小屋」)

ここからいよいよ赤沢山へ挑む。見た目はそれほど密度の濃さは分らなかったが、いざ踏み込んでみると煩い笹藪で、途中からは石楠花の群生もありしばしば立ち往生する。30年ほど前に切り開かれた事があるらしいが、その後はほったらかしで完全に原始に戻っているようだ。下山路が分らなくなるのを恐れ予備の軍手や白いレジ袋を30m程の間隔で立木に縛り付けて格闘する事25分程で座る場所もない赤沢山に着いた。

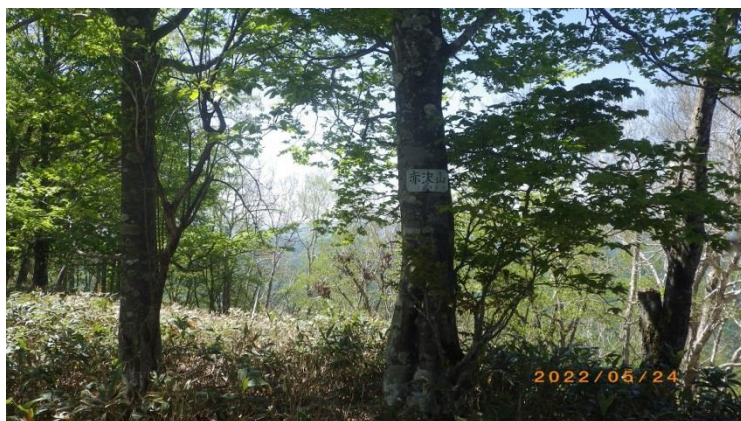
立木に阻まれ展望は利かずしょうもない山だが、ピンクの石楠花が綺麗だったし、まずは登れたことでヨシとしよう。復路はわずか10分余で峠に下山出来た。

峠から稲包山までは四万温泉からの登山路でもあり、左に雪を残す白砂山や佐武流を見ながら明るく開放的な尾根歩き、11:30 頂上に着く。

地元四万温泉では古来から農業信仰



(朽ち果てた標識)



(赤沢山頂上)

の山となっており山頂の石碑は文化元年（1804）建立だそう。三国峠からというカップル1組が昼食中だった。ここの展望は360度、苗場スキー場の筍山が大きく、右手には平標山、仙ノ倉と谷川連峰が嬉しい。下山はムタコ沢口まで1時間半だった。



（稲包山頂上。バックは仙ノ倉山）

### 《コースタイム》

赤沢スキー場登山口 6.10→9.00 赤沢峠 9.15→9.45 赤沢山→赤沢峠 10.00→11.30 稲包山 11.40→13.10  
ムタコ沢登山口 13.10→13.40 赤沢スキー場登山口 （標高差：810m）

☆登山口から稲包山山頂まで26年前は上り3時間20分だったが、今回は赤沢山往復を除外して4時間20分かかった。54歳と80歳の差である。

（了）